

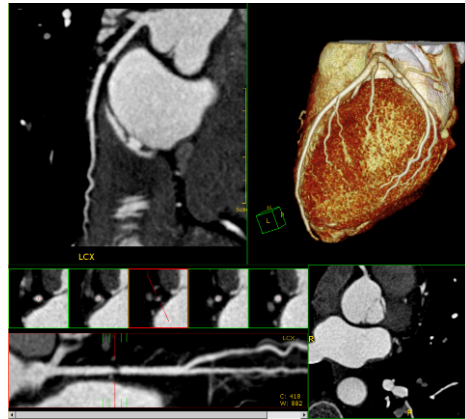
特集

更新装置トピックス① 64列CT装置（心臓検査）



コンピュータ断層撮影装置（CT）は、体の周りを回転しながらX線を照射することで、輪切りの断面写真を撮ることができます。画像診断の中心的な役割をもつCT装置を64列CTに更新したことで、画質が向上し、被曝線量も減りました。以前の16列CTより撮影時間が短くなったことで、動いている体内臓器の立体表示がより正確になり、あらゆる方向から、診断することが可能となりました。

その中でも心臓の検査は特に有



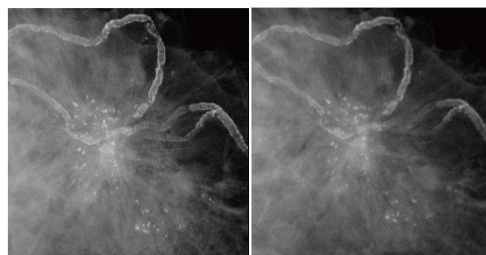
用です。従来、精査を行うためには動脈に針を刺してカテーテルを心臓まで進める必要があり、止血や安静のために入院が必要でした。心臓CTでは静脈に注射をし、そこから造影剤を注入することで撮影でき、体への負担も少ないことから、外来での検査も可能です。画像処理技術も向上し、血管の狭い部分や、心機能異常の有無を観察できます。

今後、320列CTの導入も予定しており、CT診療の機能向上により一層寄与することができます。

更新装置トピックス② マンモグラフィ画質の向上

日本女性のガンの中で乳がんは現在最も高い罹患率を示しており、乳がんによる死亡率も年々増加する傾向にあります。早期発見さえできれば、乳がんの死亡率は低く、非浸潤がんの場合であれば0%に近いほどです。したがって、どの段階で症状を見つけることができるかによって、予後の経過は大きく変わることになります。

そのため、乳がんの早期発見を目的にマンモグラフィを中心とする乳がん検診が広く行われています。この度更新した装置はデジタル機能を駆使し、世界最小となる画素サ



最小 50 μm

従来の画質

イズ50 μmの高精細画像を得ることができます。マンモグラフィ診断においては1 mm以下の微小石灰化の有無、分布、及び形状などが診断上重要な指標となります。より微細な画素サイズで描出できることにより、検出能の向上につながります。

そのほかに放射線に対する感度が上がったことにより被曝線量が低減し、また、皮膚に触れる部分は患者様に優しい形状となっていて安心して検査を受けていただくことができます。